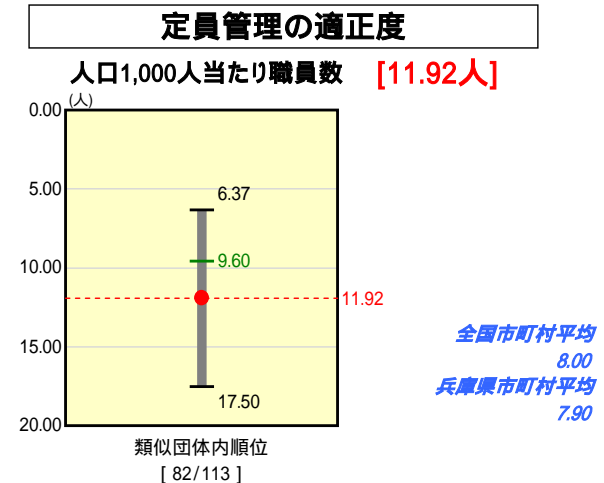
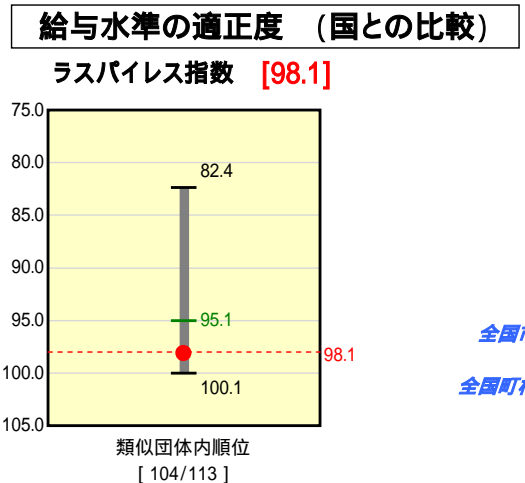
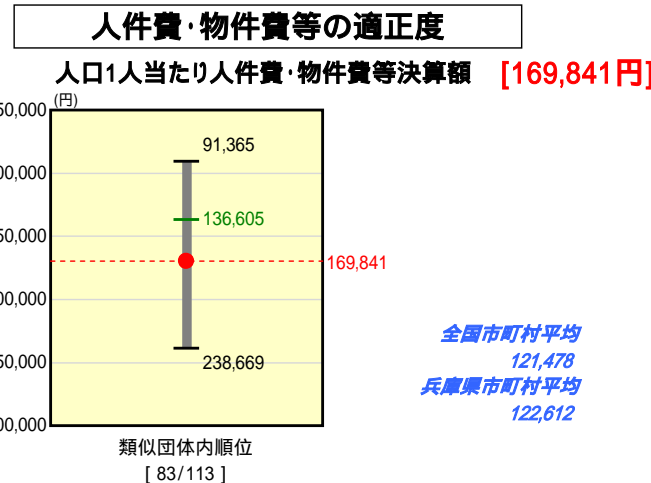
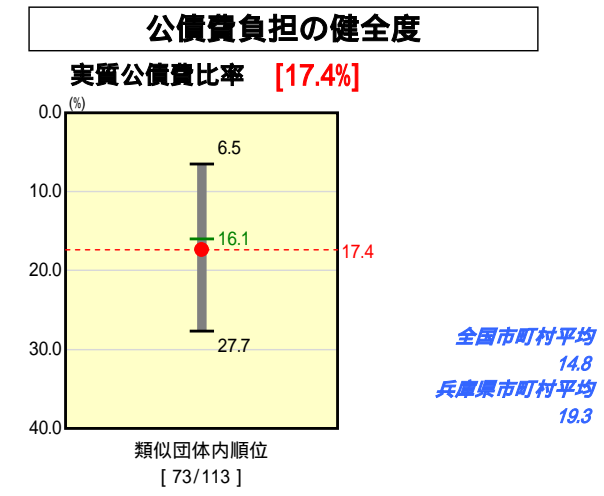
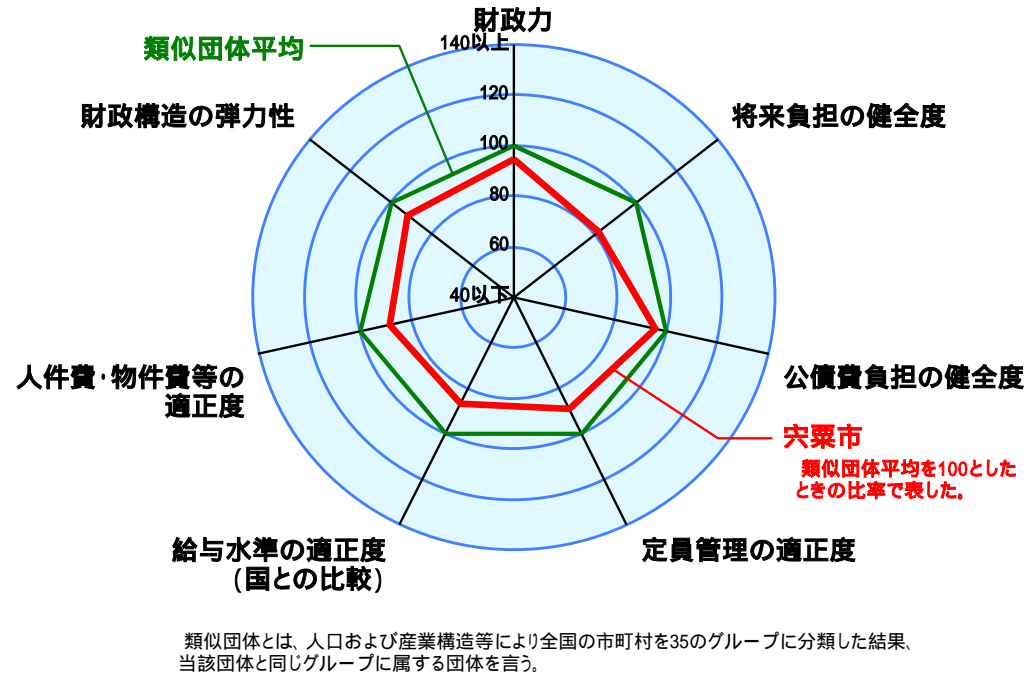
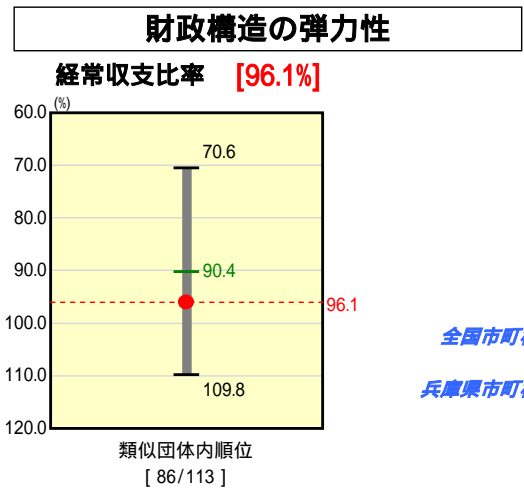
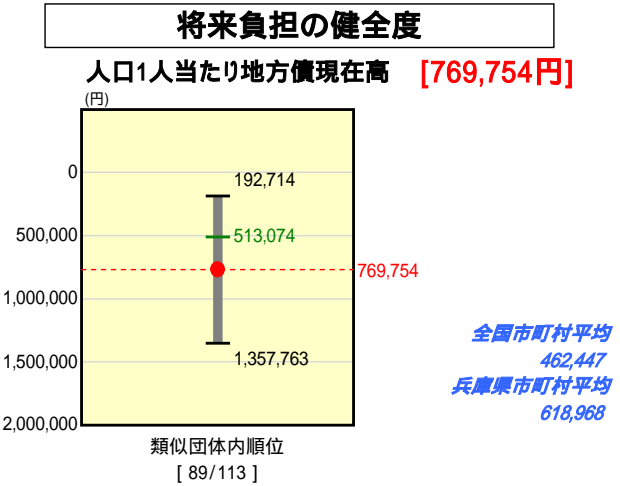
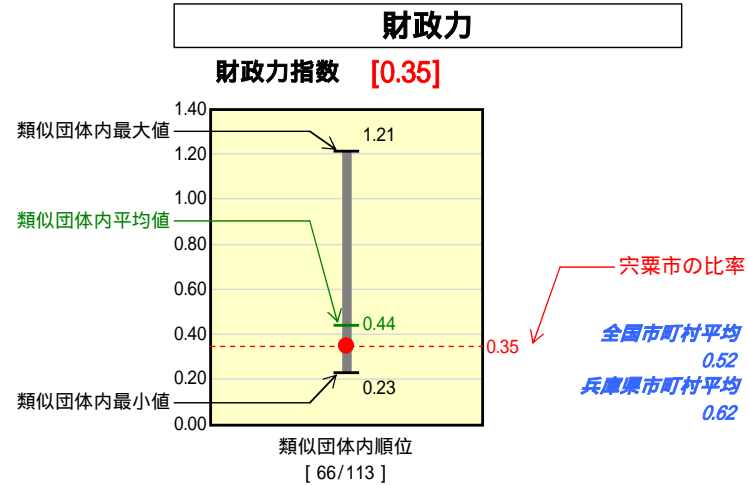


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

兵庫県 宍粟市

| | | |
|------|------------|-----------------|
| 人口 | 45,288人 | (H18.3.31現在) |
| 面積 | 658.60 | km ² |
| 歳入総額 | 25,046,426 | 千円 |
| 歳出総額 | 24,444,765 | 千円 |
| 実質収支 | 543,362 | 千円 |



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数…人口の減少(国勢調査:10年前に比べ9.8%の減)や景気の低迷、市内に中心となる産業が少ないこと等が影響し、財政基盤は弱い(類似団体平均 0.09、県内29市の中でも28番目)。平成17年4月1日に合併し、財政基盤の強化を図ったところであるが、歳入に占める地方税の割合は17.9%にとどまっている。今後は、税収の徴収率の向上対策等により歳入の確保に努めながら、18年度に策定した総合計画に基づき、林業再生など地場産業の強化や少子化対策の推進等に取り組む。

経常収支比率…これまでの過疎対策事業やし尿処理施設の建設など、近年の社会資本整備に係る公債費や旧4町の合併と3事務組合の市への編入に伴う人件費が高んでいるため、類似団体より悪い状況である。公債費は新規発行債の抑制により減少傾向にあるが、人件費については、適正規模までの職員数の削減等が急務となっている。今後は、平成17年度に策定した定員適正化計画に基づき、退職者の1/3補充を原則とした職員数削減に取り組む。また、給与等の適正化では、旅費等の見直し、特別職の報酬のカットに加え、18年度からは各種手当の削減(調整手当5%の廃止など)を実施している。

人口1人当たり人件費・物件費…旧4町の合併等に伴い、人件費や施設の管理経費などの物件費(1人当たり額)が類似団体より悪くなっている。今後は平成17年度に策定した行政改革大綱等に基づき、職員数の削減や指定管理者制度による民間委託の推進(18年度に新たに20施設導入済)、行政評価システムの構築などに取り組む、経費の節減に努める。

人口1人当たり地方債現在高…平成17年度末の地方債残高は、普通会計で約350億円、全会計で約777億円である。1人当たりの残高(普通会計)になおすと、類似団体と比較して悪い状況である。18年度以降は、投資的経費を原則として対前年度10%減と設定し、新規発行債の抑制を図る。また、合併特例債等の交付税算入のある有利な地方債を計画的に活用することによって、実質的な後年度の負担を見通しながら、財政の健全化に努める。

実質公債費比率…類似団体平均よりやや悪い(平均より+1.3%)。長期的な視野にたつて、地方債発行額を抑えることに努めているが、今後、地域情報化の推進、小中学校の大規模改造など大型プロジェクトを控えているため、過剰投資、公債費負担増を招かないよう、将来推計をもとに適正な判断によって財政運営を図る。

ラスパイルズ指数…平成17年4月1日現在(99.3%)と比較し、1.2ポイントのマイナスとなっているが、類似団体の中では、高い数値を示している。今後は、給与構造改革に伴う新給料表の適応や各種手当の見直しなどにより、給与の適正・改善を図る。

人口1,000人当たり職員数…旧4町の合併等に伴い、市の規模の割には職員数が多く、類似団体より人口1,000人当たり2人程度多い状況となっている。今後は、平成22年4月1日を最終期とした定員適正化計画の数値目標(平成17年度4月1日時点比較 59人[6.8%])の達成にとどまらず、毎年度計画の見直しを行い、職員数の削減に努める。